

○全日本馬場馬術大会Ⅱ

7月29日～30日、晴天に恵まれた御殿場で第75回全日本馬場馬術大会 PartⅡが開催され、遠野産馬10頭(内神奈川産の「と」印馬1頭)が参戦。3課目クラスでは齋藤裕巳選手騎乗のココライアン(ウルフ・スタッド)が優勝しました。



富士山を望む御殿場市馬術・スポーツセンター

遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ
情報誌

No.82

2023年9月1日

○ココライアン

20人馬で行われた3課目クラス決勝。前日の予選で2位だった齋藤裕巳選手とココライアンが68.958%の得点で優勝しました。今年1月からココライアンに騎乗するようになったという齋藤選手。「馬はまだ幼い部分があるけれども素質はあるので、来年は4課目クラスを目指して頑張ります」と話されていました。



ココライアン&齋藤裕巳選手

ココライアン(セン7歳) 父:ラバノ 母:ココシャネル

2016年3月26日遠野市松崎町生まれ 生産者:菊池頼安氏



2016年5月 菊池頼安氏の厩舎にて



2016年8月 荒川高原にて

今大会ではラバノとヴァーリントンWの産駒が活躍しました。



ティノ・タイニ(父ラバノ)&浅川晴央選手

5課目第4位



ヴァーリン・レオ(父ヴァーリントンW)&小野寺正二選手(左)

ラインハルト(父ヴァーリントンW)&関戸大介選手(右)

4課目第4位(ヴァーリン・レオ)、第6位(ラインハルト)



リパ・ティエ(父ヴァーリントンW)&市川順子選手

全日本内国産馬場馬術選手権第5位